

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年 8月29日 No.19

これがJR東日本の職場現実②

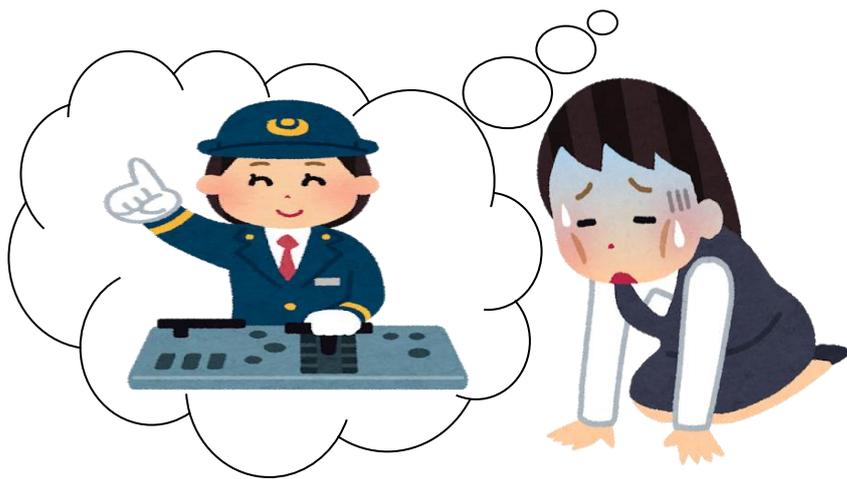
要員不足を背後要因とした事象が多数発生!

8・8集会で出された各職場からの声を紹介します!

【運輸職場】

休日労働の増加や超勤を前提とした委員会活動が当たり前で、月の休日労働の数をアピールする人がいて、副長が翌月の休日労働のできる日を事前に聞いて歩く。乗務員の予備がほとんどいない為、突発年体が発生すれば代務者を探すことに苦労している。

社員間で「誰々がまた休んだ」「代わりに乗務する人は大変だ」「あいつはよく休む」「誰々は休日労働をやらない」「職場からの電話に出ない」と社員から社員へと矢印が向いている現状。



【運輸職場】

1ヶ月の休日勤務は運転士が2回、車掌が1回発生するのが常態化。さらに年休申請した日を解除し特休・公休に変更することも常態化している。

教育期間も短い新人車掌において、初めての単独乗務で臨時行路を乗務させる交番作成に対して、交番担当も指導員も何も思わない異常な感覚。

【営業職場】

「臨時窓口を開けたくても人がいないので開けることができない」「統括センターから応援に来ても臨時窓口を開けずに駅の社員に企画業務をやらせるために代務している」「臨時窓口の位置付けだが、毎日開けている状況」「近隣窓口の営業時間の短縮や閉鎖によって毎日1時間待ちは当たり前」という現状。

